

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森1173番地		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvossvoCd=2192800015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvossvoCd=2192800015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざすやさしさ、やすらぎ、信頼をモットーとし、職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。昨年からのコロナの影響で、面会、外出などが制限され、窮屈な生活となっていますが、施設でできる範囲で、恒例の行事や施設内や庭での散歩などをおこない気分転換をおこなっています。また利用者が残された力を発揮し、おやつ作りや洗濯物の片付けなどを手伝っていただき、できる楽しみをみつけて、いきいきとした生活ができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の診療所や歯科診療の訪問医療の体制が充実しており、医療面での安心感が家族との信頼につながっている。コロナ禍で職員の急な休みには、職員のチームワークの良さでカバーして乗り切り、利用者サービスの低下をさせることなく対応している。外出を自粛しているため、室内での体操や生活リハビリで下肢筋力低下の予防に努めている。今年は温泉祭りが再開され、地域の神輿や龍が巡回し、地域とのつながりが徐々に復活している。管理者は、職員が希望するシフトを調整し働きやすい職場環境を整え、技能実習生にも介護技術のみならず、日常生活にも心配りをし、人材育成に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と実践として、玄関やユニットに提示し、常日頃より意識して理念に沿った介護に活かせるようにしている。また職員会議でも理念の確認をおこなっている。	理念は簡単明瞭な文言であり、職員も即答でき、玄関先と各ユニットのリビングに掲示している。職員会議レジュメの下部にも理念が記載されており、常に職員への意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防のため、日常的な交流は困難だが、感染対策を十分おこなった上で支援学校の生徒の太鼓演奏会を行う事ができたり、中学生の体験研修の受け入れもおこなって、利用者とは交流している	今年は温泉祭りが開催された。神輿や龍が施設を巡回し玄関先で地域交流をすることもできた。同地域エリアの支援学校生徒の太鼓演奏会も行うなど、コロナ感染拡大状況を見ながら、地域の付き合いを徐々に再開させている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議が開催できていなかったが、5月より2か月に1回の会議が開催できている。施設内の活動報告や、また地域の区長さんとも交流ができ、事業所のアピールもできた。	今年度から、対面での運営推進会議を開催しており、法人運営の4部門合同会議となっている。活動報告及び予定、ヒヤリハット・事故報告、利用者状況を説明しながら、活発な意見交換をし、出された意見や要望を運営に反映させている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の会議などには参加し、施設内の状況などを報告し、随時連絡をとっている	市主催の介護実務者研修が市内で受講ができ、対象の職員が数名受講している。事業所はコロナ感染状況や面会の方法など報告し、市内の介護状況の動向を行政から聞くなど、相互で情報交換し協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内にて研修会を開いたり、委員会を定期的におこない、利用者の状況を検討し拘束のないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を定期的に行い、利用者の中でケアに注意が必要な人の支援対策を検討し、拘束をしないケアに努めている。職員は、法人が導入している外部講師の年間研修で拘束と虐待について学んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会をおこなって学習している。表皮剥離やアザなどの発見を報告書や記録に残し、原因や情報を共有して、安全対策などを考えている	虐待防止委員会を定期的に行い、研修会では資料やDVD等で虐待についての理解を深めている。アザを発見した時には、その原因や対策を話し合っている。日頃のケアを振り返るチェックシートを活用し、虐待につながらないケアについて、職員一人ひとりが意識し実践している。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解などができていないため、勉強会などで学習していけると良い		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人、家族に内容を詳しく説明し、不明な点は明確にしておくように努め、契約時には十分理解し、納得していただけるようにしている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加もお願いし、意見や要望も伺うようにしている。面会時には本人との面会だけでなく、意見も聞けるように努めている	前回の課題であった「家族への情報発信」を積極的に実践している。現在、面会時間に制約があるものの、玄関先での面会も実施している。担当職員からの近況報告、法人の通信、運営推進会議の議事録などで運営状況を伝え、利用者の様子がわかる大き目の写真と共に家族に送付し、意見を運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、管理者会議において意見、要望を聞き、議事録を回覧し、全職員に通達している	管理者は、隣接する他事業の管理者も兼務しており、多忙ではあるが職員の意見や要望に耳を傾け、風通しの良い関係作りに努めている。職員会議や管理者会議の議事録を回覧し、運営状況は全職員も把握している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事評価制度があり、年2回の面談などもおこない、昇進や通常業務などの意見や、悩みを聞き、考慮している。	人事評価制度を導入し、職員の勤務状況や目標達成度等を把握している。また、面談で本人の要望や思いを聞き取り、働きやすい勤務体制にしている。産休、育休が整備され、休憩時間も確保できるシフトになっている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会に参加し、職員間で意見を交換している。又、zoom研修がある時は積極的に参加している	外部講師による年間研修が設定されている。研修は対面や、DVD視聴とレポート提出、ZOOM研修など参加しやすい方法を提供している。実務者研修の費用補助もあり、資格取得を奨励している。技能実習生のサポートにも努めている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	まだ積極的に交流はできていないが、今後は訪問などをして、情報交換ができると良い		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気を大事にして、お互いが助けあって生活していると思って頂けるように、出来ることと、出来ない事を見極めてお願いし、暮らしを共にしている		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で得た情報や言動から得た情報を、記録やカンファレンスにて職員間で共有し検討している。	介護度の高い利用者が多いが、職員のコミュニケーション力で上手く引き出し、生活支援の中で、利用者の思いや意向を把握している。入居時に得た情報から現在までの変化について、記録や会議で確認し、職員間で共有しながら実践に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意向を取り入れながら、個々の身体状況や生活の様子に応じて、より良い支援方法を考え、そのつど見直しもおこなっていけると良い	利用者と家族の意向を確認しながら、ケアマネジャーが中心となり、看護師、歯科衛生士、職員等が話し合い作成している。本人の出来る事を優先した介護計画を作成し、課題が出た時には柔軟に見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録はケアプランに沿った事を中心におこない、記録、申し送りノートの活用で情報の共有をおこない、支援につなげている	介護日誌と介護支援経過、介護計画が連動しており、計画の進捗状況を見ることが出来る。タブレットを利用した記録とせず、職員手書きの記録や申し送りノートで確実に職員間で情報共有し、実践につなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろな状況に応じて、既存のサービスにとらわれず、柔軟に対応できるように努めている。	法人運営の4事業が連携しながら職員不足を補い、サービス低下を防いでいる。専門医受診時の送迎を事業所で行うサービスもある。入浴は別棟で温泉を楽しむことができ、定期訪問の移動販売で買い物を楽しむなど、多機能性を活かした支援をしている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流もなかなかできない状況であったが、地元の中学性や支援学校との交流ができた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主治医とし、担当看護師が情報提供をしたり、受診にも付き添いしている。往診も依頼でき、主治医との連携をとっている	ほとんどの利用者が、法人内にあるクリニックの協力医を主治医として選択し、定期的な往診を受けている。職員として配置している看護師が、利用者の情報を提供するなど、適切な医療体制が出来ている。歯科も法人建物内に診療所あり、協力医となっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換は常におこない、お互いの相談や要望などの連絡をとり話し合いをおこなっている	日中は、非常勤看護師がおり、隣接部署の常勤看護師の協力を得ながら、緊急入院時には適切な支援体制で対応している。入院先の医療機関にはサマリーを渡して常に情報交換を行い、早期退院に向けて、家族と相談しながら支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご本人の身体状況から、ご家族の要望が得られるように、医療機関とも連携をとり、方針を共有し、支援している	看取り支援は行っているが、医療的措置のない自然な看取りを基本として支援している。法人内でコロナ感染症が発生した時を除いて、看取り期にある利用者の家族には、居室での面会を許可し、心情に配慮した支援につなげている。	看取り期については、医師や看護師の指導の下、経験の積み重ねで支援している。看取り後は、職員のメンタルケアも含めて、看取り支援のプロセスを職員間で振り返り、次の支援につなげる取り組みに期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時はすぐに看護師に連絡できる体制をとり、指示を受けるようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施し、同じ事でも、何回でも繰り返しおこなうようにし、意識を高めている。備蓄の整備や管理もおこなっている	災害時は、地元の職員が第一に駆けつける体制ができている。地域住民の避難所として事業所を提供し、泊りができる寝具の準備もある。事業継続計画を作成し、災害後の体制も確立させている。停電を想定し石油ストーブの用意もある。	前回の課題が「事業所独自の避難訓練を定期的に行う」とし、1回は実施したがコロナ禍で難しかった。職員一人ひとりが利用者を迅速に誘導し、安全に避難行動が出来るよう、継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や状況を把握して、プライバシーの確保や人格の尊重を意識している	地元の職員が多く、長年、支援している利用者も多い。方言を交えての会話は親しみがあるが、言葉遣いについては、管理者が、その時の状況に応じて適切な指導をしている。男性専用便器があり、後始末が必要となるが、人格を尊重し支援している。トイレのカーテンを閉め忘れていた職員には注意をしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のささいな訴えでも傾聴し、思いを表現しやすいように普段から会話を多くして対応している		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務的な事を押し付けるのではなく、各個人のペースに合わせた生活ができるように支援している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつの時などは、一緒におやつ作りをおこない、楽しみをもっていたいでいる。季節の食事、朴葉寿司、おはぎなどで季節を感じてもらっている	専門業者から調理済み副食を調達し、盛り付けや食事形態は職員が行っている。季節の流しそうめんや朴葉寿司、夏祭りではバイキング形式で自由に好きな物を食べるなど、楽しんでいる。差し入れの「なつめ」を砂糖煮したり、胡瓜に塩を振り、生で食べるなど、利用者は、昔、食べた記憶の味を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、個々の状態を把握している。必要に応じて主治医に相談し、補食したり、栄養剤の処方依頼している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや、口腔ケアをおこなっている。口腔内の健診も歯科衛生士に依頼し、連携し対応している	口腔ケアに力を入れており、毎食後の声掛けや介助の必要な利用者には職員が支援し、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に歯科衛生士が口腔内チェックを行い、治療が必要な時は歯科協力医と連携し対応している。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々に合わせたトイレ誘導や声かけをおこなっている。またオムツ使用の方でも、その方に応じた回数や種類を検討している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	温泉入浴を楽しんでいただいている。各個人がゆったり入浴できるように時間配分などを考慮している		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も臥床できる時間を考慮したり、個人にあわせた就寝、起床を対応している		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の防止を徹底したり、服薬内容を理解するように看護師と連携し、変更があった場合もすぐに職員に通達している	過去に誤薬事例があり、その後は徹底した誤薬防止に努め、3回確認の体制で誤薬は起きていない。薬の変更時は、職員が利用者の体調変化を観察し、申し送り時の報告や看護師と連携しながら適切な支援につなげている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事の範囲でお手伝いをおこなっている。またカルタや歌レクなどで、楽しみをもっといただいている	コロナ禍で行動に制限はあるが、洗濯物たたみや新聞紙を活用したゴミ箱作り、食事準備など出来る事で、その人の役割として支援している。元保養所であった時の広い浴室は見晴らしが良い。温泉なので、入浴が利用者の楽しみとなっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲でドライブに参加していただいたり、施設周辺の散歩などを積極的にこなす、季節を感じていただいている	コロナ禍で観光地への外出は避け、建物周辺の散歩で気分転換を図っている。近くに神社や公園はあるが、周辺は急な坂が多く、車椅子利用者の支援は職員の負担感が大きい。室内歩行で下肢機能低下予防に努めている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や訪問パン屋などで本人の選択により購入し、職員が支援している		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は希望された時に、状況に応じて職員が支援している		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃により清潔保持に努めている。感染防止拡大のため、定期的に換気をおこなっている。四季が感じられるように、季節にあった作品を一緒に作成したり、写真を掲示している	元保養所の建物を改修しており、2階に玄関があり、1階が居室となっている。エレベーターはないが階段に昇降機が設置してある。温泉街の高台に位置し、浴室や居室の窓から四季折々の景色が眺められる。整理整頓が行き届き、清潔で明るい。定期的な自然換気にも努めている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で楽しくすごされるように、リビングの席などを考慮している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の希望の物を部屋に配置し、居心地よく生活できるよう工夫している		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体状況に応じて、ベッドの位置や家具の配置を工夫している		